

クリモトの社会的取り組み

国内の地域清掃から海外での植林活動まで、より広いフィールドで社会貢献を行います。また、展示会への積極的な参加を通じて、当社の技術をより多くの人に伝えています。

大和川・石川クリーン作戦

「府民の力で大阪をきれいにしよう」を合言葉に毎年行っている府内最大の「一斉清掃」大和川・石川クリーン作戦」が、今年も3月6日に開催されました。当日は天候には恵まれたものの、まだ肌寒いような気温でした。そんな中、集合場所のJR浅香駅前にOBも含めた30名以上の有志が集まりました。主催者側から渡された軍手とゴミ袋を手に空き缶や空き瓶を拾いながら河川敷を進んでいき、約2時間に渡って清掃活動に従事しました。最終的には、参加者の手によって集められたゴミで、いくつものゴミ袋が一杯になりました。今年も大和川のクリーン化に貢献することができました。



オイスカ「子供の森」計画支援(植林活動)

1999年から当社は財団法人オイスカの「子供の森」計画を支援しています。これは子供たちが学校の敷地や隣接地に苗木を植え、それを育てていくという学校単位での活動。植林を通して、子供たちの地球環境を大切にすることを目的とします。1991年よりインドネシアのジャワ島の小学校やリハビリセンターでの植林が始められ、現在も現地の子供たちやハンディキャップを持つ人たちの手で植林活動が進められています。当社の支援に対して、1999年にはオイスカより表彰がありました。

※財団法人オイスカは1961年創立で、国連社会理事会諮問資格GENERAL(最高ランク)の国際的な活動で知られている地球環境を「教育と開発」を促進するNGOです。



国内各種展示会に出展し、環境調和機器をアピール

環境技術に注目が集まる中、当社の各カンパニー、関係会社は環境調和機器の新製品や技術を展示会を通じて来場者に広くアピールし、いづれも好評を得ました。



2005年8月「土壌・地下水浄化技術展」
クリモトソイルバンクとNPKソイルリサーチが共同出展。土壌汚染対策を総合的にコンサルし解決できる仕組みに注目が集まりました。



2004年7月「下水道展04横浜」
当社から鉄管・バルブ・環境の各カンパニーと当社関連会社が共同出展。



2005年9月「管工機材・総合設備展」
ライフラインと地球を支える管工機材として、より環境をテーマにした構成がなされる中、バルブ事業部を中心に各種製品が展示されました。



2005年10月「粉体工業展・大阪2005」
各種粉体機器の展示やプレゼンテーションを行いました。

海外展示会に出展し、クリモトの技術力をPR

2004年9月にドイツ・ベルリンで開催された「InnoTrans 2004」にクリモト製ブレイキディスクを出展。2004年10月には中国・上海で開催された「アジア国際電力電気技術設備展覧会」に栗本化成工業(株)が電力ケーブル保護用FRP管「PFP」を出展しました。

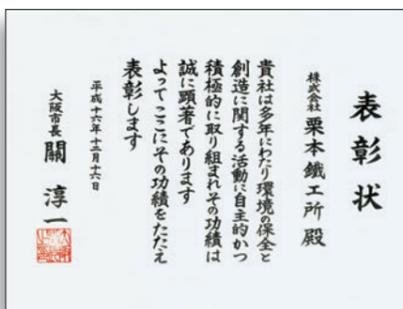
環境情報誌「なちゆるる」に掲載

当社の環境活動への取り組みが大阪市立環境学習センターから発行されている環境情報誌「なちゆるる(5月号)」の「まちのかんきょうレポート」コーナーで紹介されました。当社の環境基本方針や「3R+R活動」をはじめとする環境活動などについて、当社環境安全衛生部長からの報告という形で掲載。この情報誌は大阪市役所、並びに各区役所他をはじめ、一部の大阪地下鉄の駅にも置かれており、多くの方に当社の環境活動を知っていただくことができました。また記事の他に、表紙にも当社の従業員が環境活動に取り組んでいる写真を掲載していただきました。



「大阪市環境表彰」

2004年12月16日に、「地球温暖化防止パートナーシップフェア」が開催されました。地球温暖化防止月間である12月に行われたこのフェアで、当社は「大阪市環境表彰」を授与されました。この表彰は環境の保全と創造に関して顕著な功績のあった個人、団体、事業者を表彰するもの。当社は、全社的に地球環境保全活動を推進するための「栗本環境委員会」設置、CO₂排出削減などの取り組みのほか、環境調和型機器やシステムの開発・提供や、地域清掃や河川清掃への参加といった活動に対して、評価をいただきました。



「淀川さくら街道ネットワーク」に参加

淀川の河口にあたる大阪・舞洲から、宇治川・桂川、木津川の合流点にいたる40kmを桜の回廊で結ぼうと、産学官連携のNPO「淀川さくら街道ネットワーク」が発足しました。当社もこの計画に、コンソーシアムの支援メンバーとして参加しています。この活動は、地域の人たちとの協力のもと「さくら街道」を整備しながら、子供たちに水資源の大切さを教えるというものです。

献血活動

各支社店、工場ごとに献血活動に貢献しています。平成16年度の献血状況は採血者が506名でした。(5工場と本社の合計)



第三者からの意見

「クリモト環境・社会報告書 2005」によせて

環境に対する熱い思いが伝わってきました。クルピズ、ウオームビズなど地球環境へ、より具体的な取り組みが始まっています。ボクは中小企業の取材をメインにしていますが、元気社長ほど環境やCSRに強い関心を示しておられます。まあ、言ってみれば元気企業の特徴として、環境とCSRへの対応は不可欠ということ。その意味でも、クリモトさんは元気企業と言えるでしょう。大和川・石川クリーン作戦、(財)オイスカの「子供の森」計画。最近では、「淀川さくら街道ネットワーク」にも参加されているのです。無添加住宅、トランスヒートコンテナ、バイオガスパラントなど、クリモトの環境関連製品が一段と充実。担当者の環境やCSRに対する熱い思いがひしひしと伝わってきました。また、現場社員の声を掲載されたことで、この報告書がより身近なものに感じられました。社員一人一人の取り組みが大事ですね。



竹原 信夫氏
産業情報化新聞社代表
日本一明るい経済新聞編集長
(大阪大学大学院工学研究科非常勤講師)